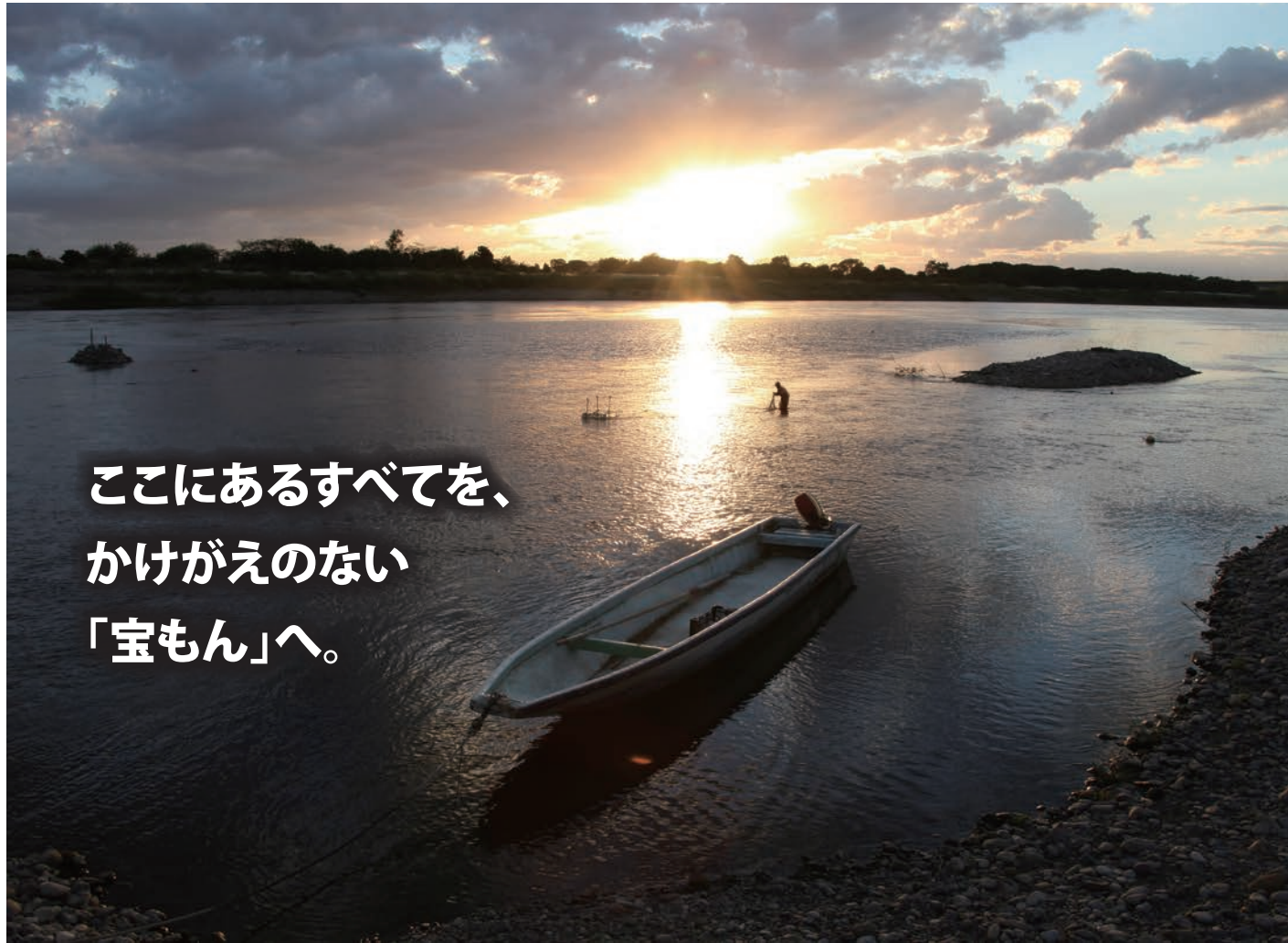


阿賀野川 えとこだより

aganogawa E-toko dayori



ここにあるすべてを、
かけがえのない
「宝もん」へ。

「安田橋上流での川漁」場所：阿賀野市新保・渡場／撮影：山口冬人氏（JPS 公益社団法人日本写真家協会会員）

もくじ ●

特集1 地域再発見講座(第19回)	2
・草倉銅山の盛衰と近代産業の光と影を 学ぶプログラム・モニター(検証)ツアー	
特集2 地域再発見講座(第20回)	4
・阿賀野川の川業の盛衰・光と影	
特集3 平成29年度パネル巡回展	6
・阿賀野川の川業が盛んだったあの頃 インフォメーション	8

阿賀野川沿岸の暮らしの変容からたどる光と影

阿賀野川を巡る光と影を
多面的に浮かび上がらせるために

FM事業(※)では昨年度まで、阿賀野川上流域の近代産業の変遷を特集していました。今年度は一転して、近代から現代へと移りゆく時代の流れの中で、阿賀野川沿岸集落の暮らしがどのように変容したのか辿っています。

阿賀野川沿岸に住む人々はかつて、眼前を流れる大河・阿賀野川を舞台に、川砂利採取や漁業、筏流しや川舟の船頭など多彩な川業に従事していました。しかし、昭和の高度経済成長期を経て川業は衰退し、道路などの社会基盤や食生活を含むライフスタイルは一変します。その狭間で発生したのが新潟水俣病で、阿賀野川沿岸の集落に健康被害など暗い影を落しました。

「日本の近代化に貢献した大企業と阿賀野川の関わり」と同様に、阿賀野川沿岸集落と阿賀野川との関わりについても、関係者を訪ね歩いて当時の事情を伺いつつ、収集した史料から読み取れる事実を丹念に積み上げていくことで、阿賀野川を巡る光と影が多面的に浮かび上がるはず。今号でお知らせする3つのイベントは、そうした阿賀野川の多面性を改めて見つめ直す格好の機会となりますので、ぜひご参加いただければ幸いです。

※FM事業とは「阿賀野川えとこだプロジェクト」のこと。詳細はP. 8参照。

この情報誌は環境省の補助を受けて新潟県が発行しています。

環境と人間のふれあい館の
キッズクラブに入ませんか？

★対象は小学生以下の児童★

環境と人間のふれあい館キッズクラブでは、子どもたちがふれあい館に親しんで、楽しみながら環境の大切さにふれることをめざします。オリジナル会員証や缶バッジのプレゼント、ふれあい館のおしごとをプチ体験できるプログラムなどをご用意します！

入会方法の詳細は、下記お問合せ先までご連絡いただくか、ふれあい館のホームページをご覧ください！

県立環境と人間のふれあい館
- 新潟水俣病資料館 -

お問合せ

住所 新潟市北区前新田字新々団乙 364-7
TEL 025-387-1450 / FAX 025-387-1451
メール fureai@abeam.ocn.ne.jp
ホームページ URL http://www.fureaikan.net/

イベント

新潟県立大学「連花祭」での「水俣フィールドワーク・ポスター写真展」＋「それぞれの阿賀展」

新潟県立大学の学生が熊本県水俣市へのフィールドワークなどを通じて学んだ成果を、ポスター・写真展示にまとめ学園祭で展示します。どなたでも観覧できますので、ぜひ足をお運びください！

展示内容	水俣でのフィールドワーク・ポスター写真展 (※平岩史行さんの企画「それぞれの阿賀展」も併設展示)
展示日程	10月28日(土) 10:00 ~ 16:00 10月29日(日) 10:00 ~ 16:00
展示場所	新潟県立大学1号館 A1207 教室 (新潟市東区海老ヶ瀬 471)
主催	県大フィールドワーク(水俣) ＋それぞれの阿賀展・共同グループ

お問合せ先 ● 教員 小谷一明 kodani@unii.ac.jp

●29日に旗野秀人氏も参加する映画『阿賀に生きる』完成25年記念鼎談～映画がつなぐ今(みらい)～を開催！



▲▼第18回表彰式の様子(写真提供：新潟水俣病共闘会議)



第19回 新潟水俣環境賞作文コンクール

県内小・中学校の児童・生徒の皆さんへ

の作品を募集します！

募集 2017 年 10 月 15 日～2018 年 3 月末
発表 2018 年 6 月

新潟水俣病や新潟県内の自然について思ったこと、身の回りの環境について考えたことや体験して感じたことなどを書いてください。皆さんの応募をおまちしています。

- 例えば、「新潟水俣病」「住んでいる地域の環境」「新潟の自然(森林・川・湖沼・海と環境問題)」「総合学習等で取り組んでいる環境問題」「水の安全、食の安全」について、体験したことや気づいたこと、考えたことを書いてください。
- 作文の応募はA4版400字詰め原稿用紙で、小学校1・2年生は600字～800字、小学校3・4年生は800字～1000字、小学校5・6年生は1000字～1200字、中学校1・2・3年生は1200字～1600字です。
- 優秀賞者には表彰状と図書カード1万円分を贈ります。佳作者には表彰状と図書カード3千円分を贈ります。
- 応募していただいた方全員に参加賞を贈呈します。

お問合せ先 ● 新潟水俣病被害者の会 TEL025-281-2466 / FAX025-281-8101
(作文の送付先 ● 〒950-0965 新潟市中央区新光町 6-2 勤労福祉会館 3 階 新潟水俣病被害者の会)

「阿賀野川えとこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川えとこだ！憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。

(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第23号はいかがでしたでしょうか？
今回の「阿賀野川えとこだより」では、秋のイベント3連弾をお届けしました。昨年度は、阿賀野川上流域で栄えた近代産業の光と影を軸に様々な取組を展開しましたが、今年度は阿賀野川沿岸の集落にて「ロバダン！」(炉端談義)を開催し、漁業などの川業や当時の暮らしなどのお話を中心にうかがっています。昨年度から今年度にかけてのこうした動きが、今号で紹介した3つのイベントとして結実した次第です。
次号では、こうしたイベントの開催結果などをレポートの形式でお届けするとともに、教育関連の取組などもお伝えしたいと予定しておりますので、ご期待ください。

阿賀野川えとこだより 第23号

発行：新潟県(※環境省補助事業) 発行日：2017 年 10 月 10 日
企画編集：一般社団法人あがのかわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX.0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

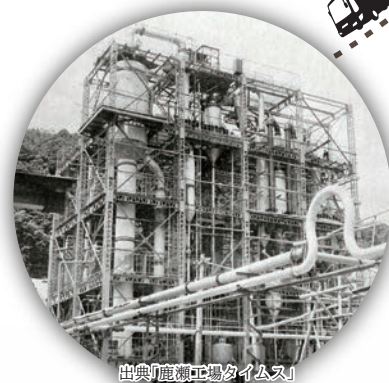
阿賀野川えとこだ!流域通信

http://www.aganogawa.info/



草倉以降に、岩越鉄道（磐越西線）や角神ダムを経て、鹿瀬工場が盛衰するまでの光と影を追体験します。

▼鹿瀬工場など



出典「鹿瀬工場タイムス」

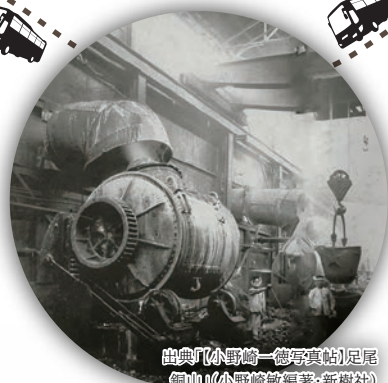


▲豪華な粗食弁当

ランチは、東蒲の秋の味覚が詰まった豪華な粗食弁当です（※写真は昨年度）。

草倉を端緒に、足尾で飛躍的に発展した古河財閥が、日本の近代化に及ぼした光と影の軌跡を辿ります。

▼古河財閥



出典「小野崎一徳写真帖」足尾銅山（小野崎敏編著・新樹社）



山口冬人氏撮影

▲草倉銅山

これまで判明した様々な史料や遺構をもとに、古河市兵衛が最初に経営した銅山の全容を明らかにします。

特集 1

近代産業の歴史を活用したモニターツアーを開催！



シリーズ 地域再発見講座
阿賀野川ものがたり

第19回

草倉銅山の盛衰と近代産業の光と影を学ぶプログラム

参加モニター募集！



山口冬人氏撮影



田辺修一郎氏所蔵



柏崎市立図書館所蔵



山口冬人氏撮影

▲持倉銅山の産業遺構。カラミ煉瓦の事務所や製錬所の建造物が長年の風雨にさらされ崩壊しつつ、現在も山中に残存している。

オプションプログラム

持倉銅山探索プログラム

オプションプログラムとして、今回のモニターツアーに参加された方限定で、次の土曜日に「持倉銅山探索プログラム」を〔一社〕あがのがわ環境学舎主催で開催します。

11月18日（土）※雨天時は翌11/19（日）に順延 9:30～12:00
プログラム代●1,500円 集合・解散●道の駅みかわ

！※11月12日（日）に開催するモニターツアーに何らかのご事情で欠席された方は、持倉銅山探索プログラムには参加できません。

※持倉銅山の産業遺構へは徒歩で片道30～40分かかりますので、なるべく体力に自信のある方のみお申し込みください。また、途中に小川があり、歩いて渡る必要がありますので、長靴などのご用意が必要です。

申込方法

- 下記必要事項をご記入の上、FAX・メール・電話にて下記宛先までお申し込みください。
- 参加者を抽選にて決定し、当落結果のお知らせは申し込まれた方全員に宛てて、11月1日（水）に郵送します（※申込者へ結果が到達するのは翌日以降となります）。

申込期限 ● 2017年10月31日（火）17時まで

参加申込書



地域再発見講座 阿賀野川ものがたり 第19回

※いただいた個人情報は、流域再生事業の実施を目的とした用途以外に使用することはありません。なお、主催者は、参加者全員を一日保険に一括加入しますが、保険適用外は自己負担とします。

フリガナ お名前			電話番号		
ご住所	〒		持倉探索 希望に○	参加する	参加しない

※当日連絡が取れる携帯電話番号優先

お問合せ・お申込み先



一般社団法人
あがのがわ環境学舎

TEL&FAX 0250-68-5424 ✉ aganogawa@niigata.email.ne.jp

開催日時

2017年

11/12（日）
8:30～17:00

集合・解散

新潟駅南口
（貸切バス乗り場）

定員 20名

料金 1,000円
（※昼食代）

（※申込方法の詳細は次ページをご覧ください）

昨年度の講座をもとに、体験プログラムを策定！
FM事業では、昨年度開催された講座「阿賀野川上流域の近代産業ツーリズム」の成果をもとに、阿賀町からの協力も得て標記プログラムの概要を策定しました。
これは企業の研修向けにも応用できるプログラムになる予定で、そのガイド内容や配布資料にさらなる磨きをかけるため、今回のモニターツアーを開催することとなりました。
本ツアーにモニターとして参加されたい方は、開催の要項をよくご確認いただき、ふるって応募ください！

主催●新潟県&阿賀野川エコミュージアム構想推進協議会 共催●阿賀町 後援●新潟市・五泉市・阿賀野市

草倉銅山から始まった東蒲原や日本の近代化



小野崎敏氏所蔵

△昨年度は初日に草倉銅山を、翌日に鹿瀬ダムや鹿瀬工場周辺を現地視察した。

背景写真：出典「鹿瀬工場タイムス」

かつて東蒲原で隆盛した草倉銅山や昭和電工（株）鹿瀬工場の歴史などを教材に、足尾銅山を経営した古河財閥の変転まで含めた「産業史の総合的な光と影」をたどることで、「明治期の先人たちのたくましいフロンティアスピリット」や「企業にとって環境配慮の地道な追求がいかに重要か」を学べるプログラムです。

